

(福祉) 大雨河小学校 4年

大雨河の自然と地域の方の姿から、心と技を学ぼう～大雨河小まごころ隊、学区へ出動！～

5月～3月(50時間)

1 ねらい

本年度はお茶の学習を進め、豊かな感性をさらに高めるために次のねらいを考えた。

- ・地域の方々の心と技をたっぷりもらい、お茶の製法に自信をつけさせる。
- ・大雨河小まごころ隊を結成して地域や施設を訪問し、お茶のおもてなしをしながら、学んだ知恵や心を伝えることで、人を思いやる感性やふるさとを愛する心を高める。
この学区に関わる自然の素材や人材を生かして、子供たちのやる気が一層高まる本校独自の特色ある活動にしたいと願い、以下のような実践を試みた。

2 実践の概要

(1) まずは煎茶作りに挑戦だ

5月12・13日に茶つみと手もみの煎茶作りをそれぞれ行った。今年は煎茶が大量に必要であることを意識していたので、黙々と茶つみをする姿が見られた。講師さんの説明で、茶つみについての新たな学びができたと同時に、茶つみに対する喜びがより高まった。茶つみの翌日は、一日中手もみでの煎茶作りとなった。約4時間かかっていた手もみの作業を終えての感想が<資料1>である。ころがしの段階が昨年度よりうまくできたことや、課題である「でんぐり」の段階をもっと上手にしていきたいことが記されており、A子なりに課題の解決や新たな課題の把握が見られた。

<資料1>

煎茶作り後のA子の感想

むす・ふくう、かわかすを上手にやれてよかったです。特にふくうのなかのころがしが早く上手にできてうれしかったです。でも難しかった作業は一番最後のでんぐりです。なぜ講師のGさんはできるんだろかと思いました。F子さんもできたのですごいなあと思いました。わたしもできるようになりたいです。

(2) 茶道教室開催！

あらかじめお願いしておいた学区の茶道講師さんと連絡を取り、第1回茶道教室を開催することになった。また、講師さんから学んだ技を見ていただくために、校長先生や職員室にみえる方にお茶を点てるようにした。A子は、校長室での抹茶点てのあと<資料2>のような感想を書いている。今後多くのお客さんに抹茶を点てたいという意欲が読み取れる。

<資料2>

校長室で初めて抹茶を点てた後のA子感想

初めて校長室でお茶を点てたときは、すごくきんちょうしました。でも最初の人が校長先生でよかったです。初めてやるのに他のお客様だったらどうなるか分かりません。私は、お茶の学習を始めたときから早くお客さんが来ないかなあと思っていました。これからもお客さんがたくさん来られるといいなあと思っています。

(3) まごころ隊、いざ学区へ出動！

大雨河学区は、大代・雨山・東河原の3地区からなっている。年2回それぞれの地区公民館にお年寄りの方々が集まる「日なたぼっこの会」がある。主催される方に連絡を取り、その会で子供たちが抹茶のおもてなしを行う機会を得た。授業の関係もあり、低学年が雨山地区、中学年が東河原地区へ、高学年が大代地区へと出動した。今年度の日なたぼっこの会は、子供たちの抹茶サービスがあるということで、各地区、例年より数多くの方が来館された。「思いがけない可愛らしい子供さんにお茶を点てただけのとは夢にも思いませんでした」等の感想をいただくことができた。

(4) 世界に一つの茶碗作り

子供たちは、抹茶を点てる活動を数多く経験するに従い、自分の茶碗を持ちたいという気持ちになってきた。お客様に「どこの茶碗ですか」と聞かれることが多く、答えられない経験を多くしてきたからである。そこで、幡豆町から陶芸家の方を招き、親子で抹茶茶碗作りを行うことにした。低学年は親の指導がかなり入ったが、中学年以上はほとんど自分で作ることができた。<資料3>は作り終わったあとのA子の感想である。約一ヶ月後に焼き上がった作品が届いた。その時のA子の感想が<資料4>である。早く自分の作った茶碗で抹茶を

点てたいという気持ちが伝わってくる。

<資料3>

親子陶芸教室後のA子の感想

私はお母さんと一緒に茶碗作りを行いました。お母さんは、「少し曲がってる」とか「ギザギザしてるからなおしん」とかすぐに言うので、少ししたら自分一人で作りました。後でお母さんに見てもらったら「いいじゃん」と言っていました。一ヶ月くらいで焼き上がると聞いて、完成が楽しみになりました。

<資料4>

親子陶芸教室後のA子の感想

集会室で自分の茶わんを見ました。思ったよりすべすべにできていたり、色もきれいになっていました。早くこの茶わんでお客様に抹茶を点ててみたいです。でも、おかさきっ子展に出品したり、学芸会などで展示したりするので少しの間はそれができません。でもよい茶わんができてうれしいです。

また、夏休みには、子供会キャンプのなかで抹茶を点てるときに使用する茶さじ、くろもじ、菓子ばしを作った。講師として、年間通して自然観察の仕方を教えていただいているM先生を招いた。学区の自然を観察するなかで、くろもじの木が生えていることを知り、それを抹茶会に利用できないかを相談し実施した。自分で作った茶碗やめいめい皿を含め、子供のおもてなしの道具がまたそろった。

(5) 茶道の技を高めよう！教育委員訪問にて

二学期の活動のメインは、新しい茶道具を使ったお手前をマスターすることと、より質の高いおもてなしができることである。二学期初旬に本校では教育委員訪問が予定されていた。そこで、この機会を生かしたいということで、まごころ隊に関する総合的な学習の授業を立案し実施した。事前に講師さんに子供たちそれぞれの課題について支援をしていただいた。教育委員訪問当日も授業に入っただき、より質の高いおもてなしができるように指導していただいた。短い時間での指導しかできないので、お客様の声を子供たちに伝えていただくために「お客様感想カード」を用意した。子供をほめていただいたり、今後気をつけていくとよいことなどを書いていただき、とてもよい刺激になった。

(6) いきいきサロン交流会での接待！

本校では年に一度、前述したいきいきサロンにて、子供たちと学区のお年寄りの方との交流活動を行っている。今年は10月8日に行くことになっていたのですが、今回は、子供たちの抹茶でのおもてなしの時間を取り入れていただくようお願いした。茶道具も一新し、茶菓子も手作りのいもきんとんを用意した。来校され、健康チェックを終えた方から、次々に子供たちの抹茶サービスを受けられた。「いもきんとんも抹茶もとってもおいしいよ」と語っていただき、子供たちはとても喜んでいました。この頃になると、A子たち4年生は、同時に二人の方を接待できるまでになっていた。質問されたことにも、十分満足とは言えないが、的確に答えるまでになっていた。

(7) 宮崎文化祭での百人茶会、大成功！

11月2日は宮崎地区の文化祭である。一昨年より本校も参加し、学校で実施している環境教育についての発表を行っている。今年度は、抹茶と茶菓子を百人分用意し、百人茶会という企画で参加した。<資料5>は実施後のA子の感想である

<資料5>

宮崎文化祭に参加してのA子の感想

私たちは、1・2年生とB君が入れてくれたお茶を、来ひんのみなさんに配っていきました。来ひんのみなさんが、「おいしい。おいしい。」と言いながら飲んでもらったのでうれしかったです。そして、片付ける時にも「おいしかったよ。」とか「また、点ててね。」など言ってくれたので、少し力が出てきました。いいことをすると、ほめてもらえるので家でもお茶を点ててあげたいです。来年も私たちが、この宮崎文化祭でお抹茶を点てるかもしれないので、たくさんの人にきてもらいたいと思います。

3 おわりに

学級の総合的な学習（お茶の研究）を、学校の特色ある活動としたいと考え、三年前から実践を積み重ねてきた。茶つみ・手もみ煎茶作り・抹茶でのおもてなしの活動と、活動自体は全校児童のものとなってきた。特に、本年度はまごころ隊を結成し、地区の方々との交流に積極的に乗り出した。本校は21年度で閉校となる。課題はまだまだ残されているが、この大雨河の地で得た心と技を持って、新しい学校へ堂々と羽ばたくことを願っている。